河内小だより

平成２２年１１月２日　№３１

読解力についての続き

ただ単に本を読むことから，考えながら読むことができると，自身の知識として身に付いてきます。社会のいろいろなことに興味を持つとさらに幅が広がってきます。何かきっかけがあるといいのですが。

読解力について

人にはそれぞれ個性があり，読解力の育ち方も一人一人違うことを肝に銘じておくことが大切です。確かなことは，読解力を伸ばす一番のサポーターは身近な家族であるということです。

〈伸ばしどころのアドバイス〉

まず，身の回りのものへの興味を育てることです。次に，質問などの日常の会話を通して，考える場面を増やす工夫をすることです。そして，失敗を恐れず子どもに何かを任せる場面をつくることです。結論を急がず時には手助けをしながら，やり遂げた経験を積み重ねていくことが大切です。

大きなニュースになった国際的な学力調査「ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査（ＰＩＳＡ）」で求められている学力とは，生活や社会で起こる問題について，自分の持っている知識や技能を生かして解決する力です。文章やグラフ・絵・図表などから情報を取り出し，自分の知識を使って解釈し，自分で考え自分なりに解決策を導き出す力です。どれだけものを知っているかだけではなく，その知識をどう活用することができるかが重要になっているのです。

「読解力」を伸ばすヒントは日常生活の中にたくさんあります。まずは豊かな読書環境を整えていくにはどのようなことを心がければよいのでしょうか。

①読書に適した環境づくり…目につく所に本を置くなどして，読書に適した環境をつくりましょう。本を読みなさいと強制するだけだは，子どもは本好きにはなりません。おうちの方も読書の習慣をつけることが大切です。

②親子で本をチョイス…年齢にもよるとは思いますが，一緒に書店や図書館へ行って，子どもが読みたい本とおうちの方が与えたい本の接点を探してみてはどうでしょうか。

③読んだ本でコミュニケーション…年齢や本によっては読み聞かせをしたり，同じ本を読んだ後親子で楽しく話をしたりすることです。このとき，一つの意見を押しつけたり，子どもの意見を否定したりしないことが大切です。書いてある内容や問われていることを正確に読み取ったり，自分の考えを説得力を持って相手に伝えたりするためには，言葉の力をつけること，言語技術力の向上が大切です。

①「主語と述語」を盛り込んだ会話を心がける。

つい単語だけで会話してしまうことがあります。あいまいな表現ばかりしていると，思考もあいまいになりがちです。「牛乳」ではなく「お母さん，わたしは牛乳が飲みたい」と，普段の生活から言葉を省力せずに文の形で会話するようにしたいものです。

②自分の意見には「理由」を言わせるようにします。

自分の意見を相手に納得させるためには，その意見の「理由」を伝えることが必要です。「どうしてそう思ったの」など，例えば，テレビ番組を見ていて「おもしろかった」と言えば「どんなとこがおもしろかった」と尋ねてみましょう。初めのうちは無理強いをせずにおうちの方の意見とその理由を話すなどして，言葉にするヒントを与えることも大切です。

③根拠と意見を文の形で話させる。

単語や文節だけでなく，「太陽は東から昇るから，あっちが東だ」のように，しっかりと文の形で表すことで論理的表現力がついてきます。ここで言う「根拠」は，「水は零度で凍る」など一般的に正しいと考えられている「裏付けのある知識」であることを意識させることが必要です。